

1-(1) 法人本部

I. 2021（令和3）年度事業の概要

学校法人東京国際大学は、「公德心を体した真の国際人の養成」を建学の精神に掲げ、東京国際大学、東京国際大学付属日本語学校、一橋学院早慶外語という三つの設置校を通じて教育事業を展開している。

2021（令和3）年度は、新型コロナウイルス感染防止対策を取りつつ、各設置校とも対面授業機会の拡大に努めた。また、東京国際大学における職域接種には、すべての設置校が参加した。また、日本へ入国できずに海外に留まる留学生にはオンラインでの授業を提供するなど、対面と遠隔を組み合わせたハイブリッドでの教育事業を展開した。

2019（令和元）年度末から導入したオンライン教育基盤、リモートワーク・インフラの整備については当年度において法人全体でより一層拡充させ、2023（令和5）年度の東京国際大学池袋キャンパス開校に向けての多拠点間連携インフラの整備を更に進めることとなった。

新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、2019（令和元）年度策定の中期計画に掲げた国際教育事業の一部については、前年度に引き続き実施を見合わせざるを得なかったが、それ以外の主要項目は、ほぼ計画どおり遂行することができた。

II. 事業項目

1. 組織・体制

(1) 東京国際大学の組織・体制拡充

2021（令和3）年5月の理事会にて、東京国際大学商学部および人間社会学部の定員増を決議した。商学部320人増、人間社会学部80人増の収容定員増につき文部科学省に認可申請を行い、いずれも2022（令和4）年4月実施が認可された。これにより、東京国際大学の収容定員は7,240人から400人増員の7,640人となる。

2. 施設・設備

(1) 東京国際大学池袋キャンパスの建設

2020（令和2）年9月に独立行政法人都市再生機構より引渡しを受けた東京国際大学池袋キャンパス用地について、2023（令和5）年5月竣工、同年9月開校に向け、校舎建設工事を進めている。2021（令和3）年度末の進捗率は計画どおり38.9%となっている。

3. 財務

(1) 資金運用

東京国際大学池袋キャンパス建設を控え、金融資産は全額現預金にて保有した。

1-(2) 東京国際大学

I. 2021（令和3）年度事業の概要

東京国際大学は「公德心を体した真の国際人の養成」を建学の精神に掲げ、建学時からの教育目標である「Vision, Courage, Intelligence を身に付けた人材づくり」を具現化するために、「スポーツの東京国際大学」「英語力の東京国際大学」を柱とした教育事業展開を強力に推進している。

2020 年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたものの、本学での新型コロナウイルスワクチン職域接種（大学拠点接種）に 6 月から協力するなど感染収束への貢献および感染防止の対策を徹底し、対面を中心とした授業運営を行うとともに、スポーツ系部活動などの課外活動の通常化に向けて取り組んだ。留学派遣についても、各国の状況を精査し、一部再開した。学生募集においては、対面のオープンキャンパスを中心にしつつも、Web オープンキャンパスやオンライン相談を実施し、受験生・保護者との接点拡大に努めた。入試では、首都圏外の受験生を対象にオンライン面接や在宅での CBT 入試方式を実施し、広域での志願者・入学者の確保を図った。

「スポーツの東京国際大学」に関しては、最高レベルの施設環境のもと、世界レベルの指導陣により展開される強化クラブ事業を中核に据えている。アスリート学生の学業面の支援体制は、人間社会学部のスポーツ 2 学科が中心的役割を担いつつ、全ての学部で受入を行っている。2021（令和 3）年 5 月時点の体育会系クラブ所属学生数は 1,024 名、全学部所属学生の 17%にのぼった。

「英語力の東京国際大学」に関しては、大学の更なるグローバル化を目指し多様な施策を展開している。2014 年度（平成 26 年度）にスタートした英語で学位取得可能な「イングリッシュ・トラック・プログラム（E トラック）」には、2021（令和 3）年 10 月時点で世界 65 ヶ国から 1,280 人の学生が在籍、キャンパスのグローバル化に大きく貢献している。英語ネイティブ語学教員組織グローバル・ティーチング・インスティテュート（GTI）には、50 人を擁し、姉妹校ウィラメット大学におけるアメリカン・スタディーズ・プログラム（ASP）留学プログラムとの連動等、英語教育指導体制の強化に取り組んでいる。ASP 以外にも ISEP 交換留学をはじめ多様な留学プログラムを拡充し、学生の多様な留学ニーズに対応している。

本学教育事業基盤については、新学部「医療健康学部」が「理学療法学科」一学科体制で 2021（令和 3）年 4 月に入学定員 80 名で開設した。併せて、経済学部経済学科、国際関係学部国際関係学科、言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科の定員増も認可を受け、2021（令和 3）年度から 125 名の入学定員増となった。さらに、商学部経営学科、人間社会学部福祉心理学科の定員増が認可を受け、2022（令和 4）年度から 100

名の入学定員増となる。2022（令和4）年度から、データサイエンスに強みを持つ即戦力ビジネス人材を育成することを目的に、商学部データサイエンスコース・グローバルデータサイエンスコースを設置する。

建学の精神「公德心を体した真の国際人の養成」に立脚した教育・啓蒙活動を推進している。日本文化研究所では、文化講演会の開催等、日本文化を核とした国際人養成教育・公德心教育を展開している。

副都心池袋に本学のグローバル化教育の機能を集約した都市型キャンパスを開設する。2020（令和2）年10月に土地の引渡しを受け、2023（令和5）年9月開校を予定する。

II. 事業項目

1. 教育内容の充実

(1) 「スポーツの東京国際大学」の推進

実施事項：	強化クラブ及び人間社会学部スポーツ2学科を軸としたスポーツ振興。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 本学強化スポーツクラブは、最高水準の指導者、最高水準の施設環境のもと、学生競技における最高レベルの成果達成を追求し、そのなかで学生の全人格的成長を促す。 ● サッカー部、女子サッカー部、駅伝部、ウエイトリフティング部、硬式野球部、女子ソフトボール部、ゴルフ部、硬式庭球部、アメリカンフットボール部、剣道部、チアリーディング部、アーチェリー部を強化スポーツクラブに指定。 ● 17万㎡（東京ドーム4個分）の坂戸キャンパス総合グラウンドはプロ仕様の施設を完備している。 ● 強化クラブ拡充に呼応して、アスリート学生の学業面での専門性向上を図るため、人間社会学部に人間スポーツ学科、スポーツ科学科を設置している。

(2) 「英語力の東京国際大学」の実践

① イングリッシュ・トラック・プログラム（Eトラック）拡充

実施事項：	英語で学位取得が可能なEトラックを学部・大学院に設置、世界各国から留学生を受入れキャンパスのグローバル化を推進。
-------	--

事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 学部では、2014（平成26）年度より経済学部及び国際関係学部横断でEトラックを設置、「Business Economics Major」及び「International Relations Major」の二主専攻（Major）を設置した。 ● また、2019年秋学期には、第三の主専攻（Major）として「Digital Business & Innovation Major」を新設、2020年度から本格的な学生募集を開始した。 ● 大学院では、商学研究科、経済学研究科、国際関係学研究科にてEトラックを設置している。 ● 春・秋二回の入学受入を行う態勢とし、2021（令和2）年10月時点で、世界65ヶ国から1,280人の学生が在籍している。 ● Eトラック推進のため、教員組織の強化に加え外国人職員の採用等事務局体制の強化にも取り組んでいる。 ● ベトナム、インドネシア、タイに現地事務所を開設する等、世界各国からの学生募集に積極的に取り組んでいる。
-------	--

② グローバル・ティーチング・インスティテュート（GTI）事業展開

実施事項：	英語ネイティブ語学教員組織グローバル・ティーチング・インスティテュート（GTI）による英語教育強化。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● GTI所属英語ネイティブ教員は50名の体制。 ● 学長直轄組織として活動対象は言語コミュニケーション学部にとどまらず、Eトラック、国際関係学部、経済学部の英語教育も担当している。2018年度（平成30年度）には、人間社会学部のグローバルスポーツ・プログラムの担当もスタートした。 ● 60分週3回、1クラス10人前後の米国型語学教育を導入し、英語スキルの向上に取り組んでいる。 ● 第1キャンパス内に英語専用ラウンジEnglish PLAZAを設置、GTFを常駐させ、授業時間以外でも英語力鍛錬可能な環境を整備している。

③ ジャパニーズ・ランゲージ・インスティテュート（JLI）の事業展開

実施事項：	日本語教育組織ジャパニーズ・ランゲージ・インスティテュート（JLI）によるEトラック学生の日本語教育強化。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● Eトラック学生の日本語スキル向上のため、日本語教育組織JLIを設置している。

	<ul style="list-style-type: none"> ● JLIは、Eトラック及びジャパン・スタディーズ・プログラム（JSP）在籍学生の日本語教育を専担する。
--	--

④ アメリカン・スタディーズ・プログラム（ASP）の充実

実施事項：	ウィラメット大学で開講されるアメリカン・スタディーズ・プログラム（ASP）を本学の旗艦留学プログラムと位置付け、GTIによる教育との連動等教育効果の向上を図っている。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 創学以来の姉妹校ウィラメット大学（米国オレゴン州）にて開講されるASPには、毎年約100名の学生が参加し、約1年間の留学を経験している。GTIにおける教育とも連動させ、本学グローバル化教育の柱となっている。 ● 2023（令和5）年1月再開を目指して、プログラムの再構築を図っている。

(3) 建学の精神「公德心を体した真の国際人の養成」に立脚した教育・啓蒙活動の推進

① 日本文化研究所主催の教育・啓蒙活動の推進

実施事項：	日本文化を核とした国際人養成教育・公德心教育の展開。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 「日本の文化と世界」を共通テーマとする講演会を例年開催。2021度はコロナ禍で開催を見送った。

② 国際シンポジウムの開催

実施事項：	第9回国際シンポジウム「日本と世界 Part6」をライブ配信にて開催。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 高村正彦元外務大臣、ハーバード大学ジョセフ・ナイ特別功労教授、国際政治学者・株式会社山猫総合研究所代表三浦瑠麗氏による講演・パネルディスカッションを実施。現在の世界を取り巻く情勢について活発な議論が交わされた。 ● 2022年度は対面での開催を企画中。

(4) キャンパス内外におけるジェネリック・スキルの涵養

① 文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC）」

実施事項：	「小江戸かわごえ」グローバル人財育成による「まちおこし」プログラム。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none">● 文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC）」に採択されたことを契機に全学的に取り組んでいる。● 地域でのフィールドワークやインターンシップ等、多様な体験型学修を組み込んでいる。● 地域を越えたまちづくりコンテストにも積極的に参加、コンテストでの受賞にもつながっている。

② 国際関係学部「観光立国プログラム」

実施事項：	JTB総合研究所との産学連携による、「観光立国プログラム」の拡充。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none">● JTB総合研究所の実務家を招き、観光に関する実践的教育コンテンツを整備した。● MICE産業論や、JTBグループと連携したインターンシップ等、先端的・実践的プログラムも設置し、「観光立国」を担う人材の育成に取り組む。

③ 学生スタッフ成長プログラム

実施事項：	大学内で働く学生を計画的に育成していくことにより、学生の力を大学で活用していくとともに学生自身の就業力を強化する。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none">● 大学生活デザイン演習の授業サポートを担うチューデントファシリテーター（SF）を拡充し、対面授業およびオンライン授業に対応している。● また、キャンパスのグローバル化推進に学生スタッフを全面的に巻き込むため、ステューデント・リーダーシップ・インターンシップ（SLI）も推進、English PLAZAやJapanese PLAZAの運営等に中核となって参加している。● 学生スタッフを育成し活用していくために「学生スタッフ成長プログラム」を継続実施。SFやSLIメンバー、オープンキャンパス・スタッフ等が参加し、Jトラック・Eトラックの学生交流の場としても機能している。

	<ul style="list-style-type: none"> ● ジュニア・ミドル・トレーナーという3段階のレベルを設定し、能力向上を促進している。
--	---

2. 新型コロナウイルス感染症収束への貢献

(1) 新型コロナウイルスワクチン職域接種（大学拠点接種）

実施事項：	新型コロナウイルスワクチン職域接種（大学拠点接種）の第1回、第2回、第3回を実施。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 全国の大学に先駆け、6月下旬より本学の学生・教職員・地域の学校関係者・地域住民の方などにワクチン接種を実施した。 ● 政府の方針発表に則り、地域自治体の負担を軽減、ワクチン接種の加速化へ貢献し、新型コロナウイルス感染症の収束に貢献する。 ● 授業やスポーツ系部活動などの課外活動を早期にコロナ禍以前同様に行うことを目指している。

3. 卒業後進路の開発

(1) 就職支援体制の強化

実施事項：	就職先マッチング態勢の強化、スポーツ系クラブ学生へのサポート、Eトラック学生への就職支援体制拡充。オンライン化にも迅速に対応。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 就職先マッチングを専門に行うカウンセラーを配置した。 ● 体育会学生に対しては、スポーツ関連企業等その特長を活かした進路を選択し、専門のカウンセラーがサポートする体制を敷いている。 ● Eトラック学生に対しては、一年次から就職ガイダンスを実施、日本企業への就職にむけた心構えを植えつけていく。また、インターンシップ・プログラムも拡充している。

(2) 教職支援センターの設置による学生サポート強化

実施事項：	教員志望の学生に対する情報提供、教員採用試験受験の支援のため教職支援センターを設置。
-------	--

事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育行政に永年勤務経験を持つ指導員が常駐。 ● 教員採用試験に関する個別相談、教員採用に関する情報・資料提供、教員採用試験に関する対策講座等の開催、「教職支援セミナー」の開催等。
-------	--

4. 教育事業基盤の拡充

(1) 収容定員増認可

実施事項：	学部志願者増に対応して、商学部経営学科、人間社会学部福祉心理学科の収容定員増認可申請を行い、2021（令和3）年9月に入学定員100名増で認可された。
事業内容：	● 2021（令和3）年6月収容定員増申請書提出。9月認可。

(2) 収容定員増認可申請

実施事項：	学部志願者動向を勘案して、人間社会学部人間スポーツ学科、人間社会学部スポーツ科学科の収容定員増認可申請（入学定員80名増）を行う。
事業内容：	● 2022（令和4）年3月収容定員増申請書提出。

5. 施設・設備の整備

(1) 池袋キャンパス建設計画

① 計画概要

設置プログラム、学部等	経済学部、国際関係学部、言語コミュニケーション学部を中心に移転を計画。商学部に関しても一部コースの池袋開講を企画。	
校地	地区名	豊島区造幣局地区（市街地 A 画地）
	所在地	東京都豊島区東池袋四丁目 3277 番 202 の一部
	地積	10,000.05 m ²
	引渡し	2020 年 10 月
校舎	階数	地上 22 階
	延床面積	約 35,000 m ²
	工期	2020 年 11 月～2023 年 5 月
	開校	2023 年 9 月

② 機関決定の経緯

2013年5月29日	理事会にて「都市型国際キャンパス」の構築を決議
2017年7月3日	理事会にて「都市型国際キャンパス」用地取得及び校舎建設について決議
2017年10月23日	理事会にて豊島区造幣局地区(市街地A画地)土地譲渡契約の締結を承認
2017年11月7日	独立行政法人都市再生機構との間で土地譲渡契約を締結
2018年1月12日	理事会にて池袋キャンパス建設に係る設計・監理契約の締結を承認
2018年4月9日	理事会にて池袋キャンパス収容定員構成計画及び学部入学定員中期拡充計画を決議

1-(3) 東京国際大学附属日本語学校

I. 2021（令和3）年度事業の概要

前年度から継続する新型コロナウイルス感染症の蔓延による日本入国禁止措置が、当年度も学生募集に大きく影響し、入学者数は前年と比べて半減した。日本語学校留学の場合、日本語学習のみならず、日本での生活そのものが留学の目的になっているケースが多いため、入国せずオンラインでの授業を希望する学生は数少ない。

学校運営に当たっては、ワクチンの職域接種の機会やオンライン授業を柔軟に活用して校内感染拡大防止を徹底しつつ、「進学に強い日本語学校」を堅持するため、学生一人一人に目が届く丁寧な教育と親身な学生支援を実践した。その結果は JLPT の高い合格率や進学率に表れている。一方で課外活動や多くの校外イベントを中止せざるを得ず、日本語学習以外で日本文化に触れる機会の提供は大きく制限された。

II. 事業項目

1. 正規課程 入学者数実績

課 程	日本語教育課程 A	準備教育課程※	日本語教育課程 B
授業時間	全日制(週 26 コマ)		半日制(週 20 コマ)
入学時期 就学期間	4 月 (1 年コース) 28 人 7 月 (1.9 年コース) 2 人 10 月 (1.5 年コース) 16 人		4 月 (1 年、2 年コース) 13 人 10 月 (1.5 年コース) 2 人
合 計	61 人		

※準備教育課程：高校修了まで 12 年を要しない国の学生を対象として、日本の大学入学資格を与えるための、文部科学省の指定を受けた課程。2021 年度入学者数実績 10 月期生 4 人。

2. 正規課程 国別入学実績

2021 年度	台湾	韓国	香港	ベトナム	フィリピン	インドネシア	マレーシア	その他	合計
4 月期生	10	9	8	9	1	2	0	2	41
7 月期生	2	0	0	0	0	0	0	0	2
10 月期生	6	3	5	0	0	0	0	4	18
合 計	18	12	13	9	1	2	0	6	61

3. 短期聴講 (1 か月～3 か月)

- ・入学者数実績 7 月期生 1 名、10 月期生 1 名、1 月期生 2 名、合計 4 人

4. 日本語能力試験 (JLPT) 合格率

- ・2021 年第 1 回合格率：N1 85.7%，N2 85%，N3 90% (全国平均合格率：N1 29.9%，N2 34.6%，N3 43.8%)
- ・2021 年第 2 回合格率：N1 53.3%，N2 73.3%，N3 100% (全国平均合格率：N1 26.7%，N2 29.2%，N3 34.5%)

5. 進路指導

・進学率 大学+専修学校 合わせて 65.6 %

・進路ガイダンス

- 第1回 4月 受験スケジュールの立て方、大学・専門学校の違い
- 第2回 5-6月 オープンキャンパスの参加、校内進路説明会参加校紹介
- 第3回 7月 夏期休暇中に行うべき受験準備、出願から合格手続までのスケジュール説明
- 第4回 8月 指定校推薦の学校紹介、日本語学校内の手続き方法説明
- 第5回 22年3月 来年度受験スケジュールの立て方、大学・専門学校の違い

・校内進路説明会・相談会(オンライン)実施 7月5日

大学：5校、専門学校：4法人(13校)+5校 参加

・進路相談室通信(No.12~No.20、不定期発行)

オンライン授業受講生を対象にオリジナル進路資料の提供

・進路状況

2022年度	台湾	韓国	香港	ベトナム	フィリピン	インドネシア	マレーシア	その他	合計
大学院									0
大学		6	5	3		1			15
専門学校	5		4	13		1		2	25
就職				2		1			3
帰国	1								1
その他	6	3	5	1	1			1	17
合計	12	9	14	19	1	3	0	3	61

〈上級学校への秋期入学による退学者(大学院進学1名、大学進学2名)を除く〉

以上

1-(4) 一橋学院早慶外語

I. 2021（令和3）年度事業の概要

創立70周年を迎えた2021年度も、「いちばん行きたい大学へ。」のスローガンのもと、難関大学をはじめとする志望の大学へと生徒を入学させるべく、少人数制授業を展開し、面倒見のよいサポートを行った。18歳人口減少の中、コロナ禍が重なり、厳しい環境ではあるが、一人ひとりの希望実現に向け教職員一同邁進している。

II. 事業項目

① レギュラー授業

(1) 高卒生コース

総合予備校として、国公立大文系、国公立大理系、私立大文系、私立大理系の各系統に応じた目標大学別クラスを設置した。

(2) 高校生コース

学力レベルに合わせた講座を設置し、単科で受講できるように配慮した。高3生を対象とした東大・一橋大プライムゼミ等の難関大向けの授業や、「個トレ（個別トレーニング）」というドリル形式の講座も組み入れ、受験を迎える生徒のさまざまなニーズに応えている。

(3) メディカルコネクト

2019年度に新たな医学部進学専門予備校として開校した「一橋学院メディカルコネクト」は3年目を迎えた。

生徒数は前年の6名から7名と微増であったが、少人数での肌理細かな指導の成果により、医学部受験生全員の大学合格を実現した。

② 講習会

(1) 「春期講習」

・ 総講座数 40 講座。4月からの予備校選択と、基礎的な学力補強のためにコンパクトな講座を主体に編成した。

(2) 「夏期講習」

・ 総講座数 113 講座。志望大学別・レベル別講座を設置し、受講生のニーズにあう講座を編成した。

(3) 「冬期講習・直前講習」

・ 総講座数 142 講座。高3・高卒生に対して、共通テスト対策および私大・2次試験向けの志望校別対策をメインに講座を編成した。高1・高2生に対しては、早期からの受験対策をアピールすべく実施した。

III. その他

① 新年度カリキュラムの見直し

・ 学力段階別授業への選択制の導入

高卒生コース各クラスに配当された基幹授業（学力段階別授業）につき、特定の苦手科目・得意科目について別レベルの授業を受講できるシステムにした。

・ 国公立大医歯薬クラスの再導入

私立大学医学部を受験しない生徒の受け皿として、国公立大医歯薬クラスを再導入し、メディカルコネクととの棲み分けを図った。

② 施設・設備関係

- ・ 校舎竣工から 15 年が経過し、経年劣化が目立つ空調設備につき、室外機（10 台）の全面オーバーホール、室内機（40 台）の分解・洗浄作業を実施した。
- ・ 経年劣化により、画像・音声の乱れが目立った授業録画サーバおよびシステムの入れ替えを実施した。